

# 弘前市立博物館 ニュースレター

## No.5

令和5年10月号

Hiroaki City Museum Newsletter

### ■岩木山初冠雪

岩木山に初冠雪のニュースが飛び込んできました。例年よりは少し遅いとのことでしたが、すっかり寒くなって、夏の猛暑が嘘のようです。

さて、10月7日(土)から特別企画展2「THE新版画～版元・渡邊庄三郎の挑戦～」が開催されています。たくさんのお客様にご来館いただき、大変好評です。

過ごしやすい気候にもなりましたので、ぜひ博物館にお越しください。(館長 熊谷)

### ■特別企画展2「THE新版画～版元・渡邊庄三郎の挑戦～」

皆さんは新版画をご存知ですか。大正から昭和30年代くらいにかけて、江戸時代の浮世絵の技術を土台に、さらに改良を加えて、まったく新しい芸術作品として生まれたのが新版画です。当時浮世絵商をしていた渡邊庄三郎は、当時の国内外の才能ある画家たちをスカウトし、浮世絵木版画の技術を継承する彫師・摺師たちと知恵と技術を結集して次々と驚くような木版画を出版していきます。

本展覧会では美人画の伊東深水、風景画の川瀬巴水・笠松紫浪、役者絵の名取春仙、花鳥画の小原祥邨ら、

新版画を代表する25人の人気作家たちの、約150点に及ぶ作品を紹介しています。しかも、展示作品のほとんどが「初摺り(しよずり)」という制作当時の作品なので、作家の表現力と職人たちの腕のよさがダイレクトに伝わってきます。

また、作品脇の解説にも、初心者にもわかりやすい新版画のまめ知識があちこちに散りばめられています。

数多ある作品のなかでも注目は、「昭和の広重」と称えられる川瀬巴水が実際に弘前でスケッチした「弘前城の春」と「弘前最勝院」です。



▲川瀬巴水《日本風景集 東日本篇 弘前最勝院》昭和11年(1936)

10月15日(日)には、本職の摺師による「新版画の摺りの実演」と、渡邊木版美術画舗3代目社長 渡邊章一郎さんによる「ギャラリートーク」が開催され、来館者は初めて見る職人技に感心し、作品を前にした楽しいお話を堪能していました。

本展は、11月26日(日)まで開催中。あなただけのお気に入りの新版画を見つけに、ぜひ博物館までお越しください。

(「THE新版画」担当学芸員 三國)

### ■博物館実習を終えて

博物館実習を10月17日(火)～22日(日)の6日間にわたって実施しました。今年度は4名の実習生を迎え、弘前市立博物館ならびに高岡の森弘前藩歴史館で実習に臨んでもらいました。具体的な内容としては、博物館で古文書や掛軸の取扱い実習と常設展解説、歴史館で武具の取扱い実習といったものでした。

実習生のみなさんには、悪戦苦闘しながらも課題にたいへんまじめに取り組んでいただきました。助言や指導を行う職員側も、実習生のみなさんの取り組み方を見ながら、自らの仕事を省みたり、あるいは伝え方の工夫などを考えたりするいい機会を得られました。

今後、実習生の皆さんが博物館実習で得た経験や知識を生かしつつ、それぞれの進路で活躍されることを期待しています。お疲れ様でした。  
(主事兼学芸員 工藤)



▲常設展解説する実習生のようす

### ■中学生の自主見学や郷土学習での見学がありました！

初々しい中学校1年生が、博物館の職員にインタビューにやってきました。第一中学校、第二中学校、附属中学校などがおいでくださいました。質問の内容と回答などを一部ご紹介いたします。



▲学芸員にインタビューする附属中学校の生徒たち

Q 博物館に飾っているものを通してお客さんに伝えたいことは何ですか？

A 資料を展示することで弘前の歴史を具体的に伝えたいと思っています。歴史を知ることは、その地域に暮らす人のアイデンティティを見

出すことにつながるからです。

Q これまでに展示した作品の中で人気があったものは？

A 小惑星探査機はやぶさです。当時、イトカワという小惑星からサンプルを持ち帰るミッションが成功し、このプロジェクトが世界的にも注目を集めており、はやぶさの生みの親である川口淳一郎氏が弘前市の出身であることもあって、「小惑星探査機「はやぶさ」—60億kmの旅からの帰還」という展覧会は、5日間で10,227人ものお客様が来館されました。(主査兼学芸員 小田桐)

### ■北海道斜里町の副町長が来館されました

今月行われた「ひろさき食と産業まつり」に参加するために、斜里町の副町長が弘前においでになり、10月12日(木)、当館にも足を運んでいただきました。

熱心に学芸員の説明を聞いて見学されました。

平成18年(2006)11月、斜里町と弘前市は友好都市となっています。文化4年(1807)、文化露寇事件(ロシア軍艦が蝦夷地(現在の北海道)近海で乱暴をはたらいた事件)に際して、弘前藩士が北方警備のために斜里に派遣されたことが縁となっています。

100名ほどの弘前藩の藩士たちは過酷な環境下で冬を越し、多くが死亡しました。その悲劇を斜里町の人々が悼み、昭和48年(1973)には現地に慰霊碑が建立されました。

(主査兼学芸員 小田桐)

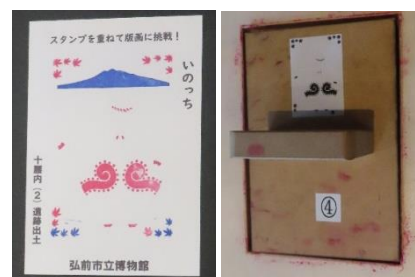
### ■受付のひとりごと

秋も深まってまいりましたが、当館では10月7日(土)から11月26日(日)まで特別企画展「THE 新版画～版元・渡邊庄三郎の挑戦～」を開催中です。この企画展では版画とは思えないような繊細な作品が約183点展示されています。

また、当館のマスコットキャラクター「いのっち」を、4色のスタンプで重ね押しをするという多色摺り版画のような体験コーナーもロビーに用意しております。お客様にも好評です。是非体験しに来てください。

さて、どんな作品になるかお楽しみに… (事務員 小野睦)

### ▼いのっちスタンプ途中経過！



### ■Fb&インスタ！～10月編～

新しい展覧会に合わせて、来館者をお出迎えする、モーターで動く「いのっち」を新たに作成しました。今までは展覧会ごとに展示に合わせたテーマで作成してきましたが、今回は版画そのものではなく、ある版画作品をモチーフに作成しました。本展覧会を観覧された方ならすぐにわかると思います。ぜひ博物館へ見に来て下さい。SNSでの拡散も大歓迎です。

次回の「いのっち」もお楽しみに！

(主事 児玉)